

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

霧ヶ谷湿原保全活動について

【報告者】公益社団法人日本山岳会広島県支部 齋 陽

2016年6月4日(土曜日)、ひろしま「山の日」のサテライト会場となっている北広島町東八幡高原において、公益社団法人日本山岳会(以下「JAC」という)広島支部が中心となって、霧ヶ谷湿原最下流部の保全活動を実施しました。

JAC広島支部29名、NPO自然史研究会5名、霧ヶ谷湿原再生協議会2名、一般22名、地元2名の総勢60名と、かつてない大勢の協力を頂き、草刈り機による雑草の刈り取りやチェーンソーによるカラコギカエデ伐採をおこないました。また、刈取った草木は土地の富栄養化を防ぐために、ビニールシートで草を集め軽トラック3台で近くの空き地へ搬出しました。

今回は大勢の協力をいただいたお陰で、昨年まで手の付けられなかった東側奥まで作業を進めることが出来ました。



切り取った草木は空き地に搬出

霧ヶ谷湿原最下流部の保全活動も6年目となり、手入れの範囲も徐々に広がり、部分的には湿地性の動植物が侵入し、またカンボクも群生しており景観も徐々に良くなりました。しかしながらこのエリアは、平成21年に霧ヶ谷湿原自然再生の土木工事が完了した際に、八幡湿原自然再生協議会において非積極的管理地とした経緯もある通り、山裾からの流水はあるものの、水量は限られており中央部分を僅かに水路が流れ、アザミ等湿地植物が生えていますが大半部分は乾燥しています。

そのため継続的に人手による雑草の刈り取りやカラコギカエデ等の伐採を続けてなければ急速に遷移が進みます。

そこで将来構想ですが、上流から流水を取り込み、導水路をこのエリアにも巡らせて湿地を蘇らせられないかということです。アザミやハンノキが生えキツバタの咲く沼地が有り、その周辺にカンボクが群生するような場所になれば、景観はもとよりカスミサンショウオやヒメシジミ等の多くの貴重な動植物の生息環境が再生できると考えます。

皆様のアドバイスやご意見をいただければ幸いです。



参加されたみなさま、お疲れ様でした!